



# 現地支援委員会

ニュースレター

「第34号」

2018年4月25日

from 東北

全国諸教会・伝道所の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。東日本大震災発生から7年が経ちました。現在、被災地では「忘れないでほしい」という思いと、「もう忘れたい」という思いが、ないまぜになっているように感じます。そのことを覚えつつ、2018年度もそれぞれの被災地域の状況に合わせた活動を行ってまいります。引き続きお祈りください。今号では、被災地や教会での3.11を覚える集会や活動の様子をお届けします。 \*今年度のニュースレターは年3回の発行となります。

## 牡鹿半島からの報告

### 宮城チームによる今までの形による支援活動の終了

3月3日、牡鹿半島に点在する被災された各浜の皆さんへ記念の花束やカードをお配りしました。その後、月浦の集会所にて最後の「牡鹿半島復興祈念礼拝」を行いました。讃美とともにチームの各教会より一各ずつ計4名より証しをいただき、金丸真牧師からはコリントの信徒への手紙一1章17節より「言葉の知恵によらないで」と題して、受け入れてくださった被災地の皆さん、主にあって祈り支援してくださった全国世界の皆さんへの感謝、現地支援活動に携わった人たちへの労いの言葉と「寄り添う」ことに徹した支援活動であったことが分かち合われました。

そして、支援が終了したのではなく、新しい関係のはじまりであることを確認し、復興を願い祈りを合わせました。



茨浜にて



牡鹿復興祈念礼拝

### 巨理訪問支援の報告

3月6日、「3・11」を覚えて、仮設住宅を出られた方々20軒に、お花とお菓子をお届けしました。今回は特に「記念日反応」を起こして痛みを覚えている方が多い印象を受けました。巨理町ではすべての仮設住宅が取り壊されます。(仙台長命ヶ丘教会)



巨理の被災農家さんのいちごは今年も好調です



お菓子とカード



お届けしたお花



取り壊される最後の仮設住宅

## 3.11 東日本大震災から7年を数えて・それぞれの教会にて



3月11日、仙台教会にて震災より7回目の「追悼と黙想の夕べ」が行われました。一瀬千恵子さん(仙台教会)、野口時子さん(福島3a! 安全・安心アクション in 郡山)に証言をいただき、壁面には「ダキシメルオモイ」プロジェクトを主催する画家、小林憲明さんの絵を飾り、モデルになった方々の文章が朗読されました。(仙台教会)

**ダキシメルオモイ**  
原発事故7年と家族たち

親が子を抱きしめる絵 モデルになった被災者は

小林憲明さんの記事「朝日新聞」東海版 2018年3月30日(部分)



朗読と壁面に飾られた絵



一瀬千恵子さん



マリンバ演奏による黙想の時



野口時子さん

### 盛岡教会

3月11日は岩手県に住む人にとって特別な日です。3月11日(日)、盛岡教会では「3.11を覚える日礼拝」と題し、礼拝をお捧げしました。礼拝直前に、地域のかたが看板を見て「参加してもいいですか」と教会の中に入ってきてくださいました。1年ぶりに礼拝に来られたご家族もおられました。礼拝の中で、現地支援委員会が出してくださった祈禱文を読み合わせました。まとめきれない色々な言葉をくみ上げていただき、一つとなって神さまに祈ることができました。

### 大富教会

3月11日は「追悼礼拝」として守り、現地支援委員会作成の「東日本大震災より7年を数えての祈り」を用いて共に祈りました。礼拝の中で黙禱の時を持つとともに、礼拝後も重ねて午後2時46分にそれぞれの場で黙禱の時を持つことにしました。また、午後7時より仙台教会にて行われた「追悼と黙想の夕べ」に参加しました。

### 仙台長命ヶ丘教会

3.11追悼と黙禱の集いでは午後2時46分に黙禱を行いました。



### 南光台教会

3.11追悼礼拝 震災当時、南光台教会は地域の方々の避難所として用いられました。それから毎年、避難生活を共にされた方々が礼拝に来てくださいます。今年も一緒に礼



拝を捧げ、交わりの時が与えられました。

次号9月号のお知らせ  
\*西南学院大学ボランティアチームの活動報告  
\*福島県緑ヶ丘仮設、各地の現状報告